



朴 相俊 PARK, Sangjun

職名 教授

担当科目

【学部科目】 統計分析の基礎、情報管理法、データ解析法、生活習慣と健康、運動と健康 I II
【大学院科目】 看護情報・分析、看護研究法、地域・在宅看護学特論 I・演習 I

学歴

東京大学大学院 教育学研究科 身体教育学コース 修士課程修了
東京大学大学院 教育学研究科 身体教育学コース 博士課程単位取得満期退学

学位

修士(身体教育学)、博士(環境共生学)

主な職歴

公益財団法人身体教育医学研究所 研究部長
佐久大学 看護学研究科・看護学部 准教授
佐久大学 看護学研究科・看護学部 教授(現職)

研究分野

精神保健関連研究:自殺予防、ゲートキーパー教育、ストレスチェック集団データ分析

Key word

地域保健関連研究:介護予防、ソーシャル・キャピタル
ソフトテニス関連研究:生涯スポーツ、中学運動部活動地域移行、女性アスリートのセカンドキャリア

**主要著書・
学術論文**

著書

1. 心のセルフケアのためのノート『おかえりこころ』。©朴相俊、PO 印刷、長野、2017.
2. 地域ぐるみのケアと予防の歩み。©朴相俊(担当:分担執筆、心の健康づくりとソーシャル・キャピタル)。厚生科学研究所 2019.

論文

1. 朴相俊, 小峯秋二, 篠原秀典, 高橋憲司, 楠堀誠司(2023). 中高年者のソフトテニス競技参加者における生涯スポーツとしての競技参加と健康及びソーシャル・キャピタルとの関連性について. ソフトテニス研究 4(1): (印刷中).
2. 上岡洋晴, 朴相俊, 和田安代, 島田美樹子(2022). 日本の妊活者を対象とした企業のいわゆる健康食品の広報戦略の特徴—キャッチコピーにおける計量テキスト分析—. Therapeutic Research 43(7): 601-610.
3. 五味達之祐, 北湯口純, 上岡洋晴, 朴相俊(2022). 中山間地域在住高齢者における健康な食生活の考え方と食料品選択の制限要因の計量テキスト分析. 日本農村医学会雑誌 70(6): 624-635.
4. 武田貴美子, 鈴木真理子, 高野美穂, 櫻井綾香, 篠崎一栄, 石坂俊也, 柴田香菜子, 柳沢佳代, 朴相俊, 八尋道子(2020). 看護学生の大学生活に関する要望—学生アンケートの自由記載の軽量テキスト分析—. 佐久大学看護研究雑誌 12(2): 203-212.
5. 宮下 美保子, 吉田 文子, 朴 相俊(2020). 3年課程看護専門学校教員の継続教育に関する研究:教育ニートに影響する学習支援環境に焦点をあてて. 日本看護学会論文集・看護管理 50: 219-222.
6. 朴相俊, 森本彩, 堀内ふき(2020). 地域中小企業で働く職員の心の健康問題の特定と職場環境改善に向けての探索的研究. 佐久大学看護研究雑誌 12(2): 1-9.
7. Park SJ, Imamura H, Soyano A, et al(2019). Relationship between healthy elderly individual social capital and health according to ward level in Tomi City, Nagano Prefecture: an ecological study, J Rural Med 14(1): 64-72.
8. 朴相俊, 征矢野あや子, 堀内ふき, 川崎美絵子, 伊藤浩志(2019). 長野県茅野市における介

護予防事業推進に向けての関連要因に関する実態調査—元気高齢者の生活機能状態とソーシャル・キャピタルの関連—。佐久大学看護研究雑誌 11(1): 11-20.

9. 朴相俊(2019). ヒューマンケアの土台をつくる基盤教育の重要性—基盤教育で豊かな人間力を育てる—。佐久大学看護研究雑誌 11(1): 3.
10. 牧知秀, 牧佳代子, 小峯秋二, 片岡淳, 篠原秀典, 山口大地, 朴相俊, 他(2018). ソフトテニスのグラウンドストロークにおける新測定法の検討—全国大会出場レベルの高校チームを対象として—。愛知学泉大学現代マネジメント学部紀要 6, 21-32.
11. 朴相俊, 岡田真平(2018). 長野県東御市における心の健康状態及び自殺念慮の要因に関する実態調査—ソーシャル・キャピタル指標との関連性を考える—。自殺予防と危機介入 38(1): 1-12.
12. 朴相俊, 岡田真平(2017). 長野県東御市における心の健康状態及び自殺念慮の要因に関する実態調査。信州公衆衛生雑誌 11(2): 107-117.
13. Park SJ, Okada S, Soyano A, et al(2017). Effects of a Gatekeeper Training for Suicide Prevention in Changing of Cognitive Social capital of Participant, ストレス科学 31(3): 237-244.
14. 朴相俊, 征矢野あや子, 今村晴彦他(2016). ゲートキーパー教育が参加者の自殺予防活動への意識変化、態度変化及び行動変化に与える影響について—Focus Group Interview 法を用いた質的研究—。自殺予防と危機介入 36(3): 51-61.
15. Kamioka H, Tsutani K, Park SJ, et al(2016). Effectiveness of Pilates exercise: A quality evaluation and summary of systematic reviews based on randomized controlled trials. Complement Ther Med 25:1-19.
16. 朴相俊, 渡邊直樹, Erminia Colluci 他(2014). 地域高齢者が日常で感じる「安心要因, 不安要因及び解決法」に関する探索的研究—自殺の多い北東北地方の高自殺率地区高齢者への訪問調査から—。身体教育医学研究 15(1): 7-14.
17. 朴相俊, 岡田真平, 征矢野あや子他(2014). 長野県東御市の中年女性のストレス要因、対処法及びソーシャル・サポートに関する探索的研究;保健指導員を対象としたフォーカスグループインタビュー。自殺予防と危機介入 34(1): 1-11.
18. Kamioka H, Tsutani K, Park SJ, et al(2014). Effectiveness of music therapy: a summary of systematic reviews based on randomized controlled trials of music interventions. Patient Preference Adherence 8: 727-754.
19. Kamioka H, Tsutani K, Park SJ, et al(2014). Effectiveness of horticultural therapy: A systematic review of randomized controlled trials. Complement Ther Med 22(5): 930-943.
20. 朴相俊(2014). 自殺ゼロの地域を目指して—次世代の心の健康を守る—。老年社会科学 35(4): 472-477.
21. Kamioka H, Okada S, Park SJ, et al(2014). Effectiveness of animal-assisted therapy: A systematic review of randomized controlled trials. Complement Ther Med 22(2): 371-390.
22. 朴相俊, 岡田真平, 堀内ふき他(2013). ヘルスコミュニケーション方法論を活用した地域における心の健康づくり事業—1年間の取り組みから見えてきたもの—。自殺予防と危機介入 33(1): 34-45.
23. Kamioka H, Tsutani K, Park SJ, et al(2013). Effectiveness of rehabilitation based on recreational activities: A systematic review. World J Meta-Anal 1(1): 27-46.
24. Park SJ, Otaka Y, Mutoh Y, et al(2012). The effect of obstacle height and maximum step length (MSL) on obstacle crossing in healthy adults. 体力科学 61(1): 103-9.
25. Kamioka H, Tsutani K, Park SJ, et al(2012). A systematic review of randomized controlled trials on curative and health enhancement effects of forest therapy. Psychol Res Behav Manag 5: 85-95.
26. 岡田真平, 鎌田真光, 朴相俊他(2011). チェックリスト方式による身体活動環境評価の有用性—長野県東御市の行政職員による環境評価—。運動疫学研究 13(2): 137-45.
27. Kamioka H, Tsutani K, Park SJ, et al(2011). A systematic review of non-randomized controlled trials on the curative effects of aquatic exercise. Int J Gen Med 4: 239-60.
28. 上岡洋晴, 岡田真平, 奥泉宏康, 半田秀一, 朴相俊他(2009). 過疎・高齢化の進む農山町村における地域診断と医療費関連指標の検討, 農学集報 54(2): 103-109.

29. 朴相俊, 朴眩泰, 上岡洋晴他(2008). 最大一步幅によるダイナミックな移動からステイックな直立状態に至るまでの姿勢制御に関する研究; 高齢者と若年者の比較から, 体力科学 57(4): 423-432.

所属学会 日本認知・行動療法学会、日本自殺予防学会、日本公衆衛生学会、日本産業ストレス学会、日本農村医学会、日本ストレス学会、日本健康支援学会、信州公衆衛生学会

**主な社会
貢献活動** 公益財団法人身体教育医学研究所 客員研究員
信州公衆衛生学会 理事
日本自殺予防学会 編集委員
日本認知・行動療法学会 認定行動療法士 (NO.113)
国際ソフトテニス連盟 国際委員
日本ソフトテニス連盟 特別委員会 委員
日本ソフトテニス研究会 運営委員

**出前授業
テーマ** 学校:メンタルヘルス、健康教育
地域:ゲートキーパー教育、ひきこもり学習、認知行動療法、メンタルヘルス
企業:セルフケア、ラインケア、ゲートキーパー教育、ストレスチェック後の職場環境改善ワークショップ

E-mail s-park@saku.ac.jp